

第2学年学級活動指導計画

実施日時 平成17年9月30日(金) 5校時

指導者 篠田桂子(中学校特別活動担当)

生徒 男子20名 女16名 計36名

1 題材名 職業について学ぶ - 職場体験学習を中核に据えた進路学習 -

2 題材設定の理由

(1) 題材観

中学校の進路指導では、生徒が自己の適性を理解し、自ら得た情報や体験に基づいて自らの生き方に目を向け、目的意識をもって進路決定をするとともに、将来の進路の選択や生き方に生かす能力や態度を育てることを目指している。

そこで、進路指導のねらいを達成するための有効な手立てである職場体験学習を取り入れた進路学習に取り組みたい。職場体験学習は、生徒自らが職業に関する具体的な知識や情報を得て、職業観や勤労観がはぐくまれ、自己理解を深める中で自己の生き方に目を向けるきっかけともなり得る。佐賀県全体の公立中学校の約97%が実施している職場体験学習であるが、教育課程上の位置付けとしては総合的な学習の時間に行っている場合がほとんどである。ここでは、総合的な学習の時間の意義をふまえ、職場体験学習の事前・事後の学習を学級活動の時間に確保して系統立てた指導を進め、生徒たちの進路意識を高めていきたいと考える。

(2) 生徒観

生徒は小学校における生活科・社会科・道徳・特別活動等の教科・領域において、職業について直接・間接的に学んできている。中学校の第1学年で身近な人への職業調べを行い、将来の希望を実現させるためには適切な進路計画が必要であることを学んでいる。それから、第2学年の1学期には、働くことや学ぶことが自分の将来の生き方と深いつながりがあることを学んでいる。総合的な学習の時間には、職場体験学習に向けての学習を進めており、希望する職業に関する情報を意欲的に収集したり、昨年、職場体験学習を行った先輩の体験談集を興味深そうに読んだりする様子が見られた。生徒は各々職場体験学習への課題を掲げ、3日間の社会人とのふれあい体験を期待と不安半分で待っている状況である。

(3) 指導観

職業に関する意識が高まりつつある中学2年生のこの時期に職場体験学習を実施することは、将来の進路を選択・決定するために大変大きな意味をもつものである。そのねらいを十分達成するために、進路学習のプログラムとして、社会性(ソーシャルスキル)の習得、体験の心構えについての学習、体験後の進路情報の整理やまとめ、お世話になった方々へのお礼も含め一連の学習を、総合的な学習の時間の指導と系統立て、関連付けて効率的な指導を行いたい。

具体的には、学級活動における事前学習では、身近な人々の職業に関する考えなどを理解させる題材により、職場体験学習のねらいや意義、留意点事項などについて十分理解させたい。それから、体験後の学習では、体験中に分かったことや考えたことなどをまとめさせて体験を内面化したり、まとめや発表を通じて、職業の知識やその役割への理解を深めながら、体験したことを共有することができる時間を設定したいと考える。それから、友達の意見や考えを聞くことにより、自分のことを振り返ったり、学級の人間関係に深まりが出たりすることも期待している。

3 題材の目標

- ・お互いを認め、高め合う人間関係を築こうとする。〔人間関係の形成〕
- ・自己の個性や能力・適性を理解し、伸ばそうとする。〔自己理解〕
- ・働くことの意義や役割を考える。〔社会の一員としての自覚〕
- ・自己の生き方を考える。〔生き方の自覚〕

4 題材の評価規準

人間関係の形成	自己理解	社会の一員としての自覚	生き方
集団の中で、互いに理解し合い、認め合い、協力し合って、望ましい人間関係とよりよい生活を築こうとしている。	将来の生き方や進路との関係で、自己の個性や能力・適性を理解し、伸ばそうとしている。	様々な職業や職業生活について理解するとともに、職業・勤労の目的や意義を理解しようとしている。	自己の将来に希望を抱き、その実現に向けて将来の生活設計を考え、自己の進路や生き方について考えている。

5 題材の指導と評価の全体計画（全4時間）

学習内容（時数）	人間関係の形成	自己理解	社会の一員としての自覚	生き方
職業について考えよう 職業について具体的に考え、職業や働くことへの理解を深める。				
職業の特色について考えよう 職業の特色をとらえ、自分の希望する職業と関連付ける。				
職場体験学習の準備をしよう 職場体験学習に関する情報を整理し、事前準備を行う。				
職場体験で学んだことをまとめよう (本時) 職場体験学習を通し、職業と自分とのかかわりについて考える。				

6 本時の指導（4 / 4）

職場体験で学んだことを深めよう。

(1)ねらい

- ・職場体験学習を通して、自分のよさや改善していきたい点に気付く。
- ・友達の考えや感想を共有し、自分の生活に生かす。

(2)指導の過程

事前の指導と生徒の活動

活動内容	指導・援助の留意点
職場体験学習を行う [総合的な学習の時間]	職場体験学習が充実するように、事業所等と連絡を取り合う。事業所を訪問し、生徒の体験活動中の様子を見守る。心に残ったことなどを、早めに体験日誌にメモしておくよう伝える。

本時の展開

(評価の観点)

過程	活動の内容	指導・援助の留意点
活動の開始	<p>課題確認</p> <p>1 職場体験学習を振り返り、『充実度自己評価』を行う。</p> <p>2 本時の活動のねらいと流れを知る。</p>	<p>職場体験学習の様子を視聴覚教材（プレゼンテーションソフト）で提示し、職場体験学習を思い出させる。</p> <p>職場体験学習の充実度自己評価とその理由を記入させる。〔ワークシート〕 職場体験学習の充実度をグラフで表すと</p> <p>職場体験学習を振り返り、働くことや生き方に関して自分の考えをまとめていくと共に、友達の考えや学びを知って自分の生活に生かすことがねらいであることを説明する。</p>
活動の展開	<p>課題追究</p> <p>3 職場体験で感じたことについて意見交換を行う。 〔ワークシート〕 友達の考えや感想を聞いて、あなたが気付いたことや考えたことを書こう。</p> <p>4 『職場体験中の自分』について振り返る。 〔ワークシート〕 職場体験学習中のあなたはどんな自分でしたか。</p>	<p>意見交換（回し読み）をさせる。友達の職場体験学習の感想を読んで、気付いたことや考えたことを自由に記入していいことを助言し、記入した内容を発表させる。〔ワークシート〕 生徒一人一人の素直な気持ちを表現させたい。</p> <p>机間指導により、一人一人の生徒の気付きに注目し、自分への気付きを自分のよさととらえることができるような助言を行う。</p> <p>自分の将来を考えていく上で、自分のよさを生かしたり、改善が必要なところは補っていかねばならないことを卒業生の例などを挙げて話し、生徒たちに自分のことをじっくり振り返らせる。〔ワークシート〕 職場体験中の自分を振り返り、自分のよさや、改善していきたい点に気付く。</p>
活動のまとめ	<p>実践化に向けて</p> <p>5 働くことについての教師のまとめの言葉を聞く。</p> <p>6 学習を終えて学んだことをまとめる。 〔ワークシート〕 今日までの学習を終えて学んだことなどを書きましよう。</p> <p>7 発表会など今後の予定を把握する。</p>	<p>友達の考え方、感じ方を知ることは、自分の考えが深まったり、今後の生き方について考えてみるきっかけとなることを助言する。</p> <p>職場体験学習で学び、これからの生活に生かしたいことを記入できている。〔ワークシート〕</p> <p>学級活動と総合的な学習の時間に進路学習を進めること、そして2年生で進路計画を作成することを説明する。</p>

事後の指導と生徒の活動

活動の内容	指導・援助の留意点
職場体験学習発表会に向けて、職業理解や自己理解など、学んだことを整理し、考えを深める。	職場体験学習のまとめに向けて、意欲的に進路学習を継続できるように、指導・助言を行う。

評価（評価法）

- ・ 職場体験学習を通して学んだことを自分の生活に生かそうとしているか。

* 観察，ワークシート，発言など